

## 市民参加のしくみづくり検討委員会 第7回委員会 会議録

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 第6回会議録の確定について

(第5回分は修正要望なく確定。第6回分は第三者が読んだ時に分かり易くなるよう発言趣旨を変えず修正することを確認)

#### (2) 「市民参加を考える市民フォーラム」について

【委員長】 フォーラムについて、今日はここで確定しなければならないが、事務局から説明を。

【事務局】 資料 1-1「市民参加を考える市民フォーラム」企画案について。前回も説明したが、今回追加項目をゴシック体で表記した。集合の時間・場所は、12時30分、903会議室だ。次に、ワークショップのテーマについて4月28日に準備担当の委員と調整のうえ詰めた。「市民のやるべきこと、行政のやるべきこと」、「市民参加で何が変わると思われますか？何を期待しますか？」、「あなたが役所とのかかわり、つながりを感じる時」、「「大きな声」が全体の声？一人の声をみんなの声にするには？」、「一人でも、団体でも、みんなが参加できるしくみって？」の5つである。資料 1-1裏面にワークショップについて記載した。委員はテーマ毎に5グループに分かれ、グループリーダーとして進行担い、最終的に各グループで話し合われた内容を発表する。グループの人数に偏りがある場合は、人数の多いグループを2班に分け、概ね1班当たり10名程度のグループとしたい。各グループにプロジェクトチームのメンバーと事務局職員が入り、記録を担当し、協力してワークショップの円滑な運営に当たる。当日開始までの間、事前打ち合わせの時間をとっている。(1)から(7)まで記した点に注意して、ワークショップを進行願いたい。

資料 1-2「市民参加を考える市民フォーラム」役割分担・日程表案は、検討委員会、事務局、プロジェクトメンバーの当日の役割分担だ。会場準備は事務局で前日行い、委員は当日12時30分に集合、プロジェクトメンバーとの打ち合わせ後、参加者が来場する段階では会場内での誘導をお願いしたい。

資料 1-3は会場のレイアウト案だ。9階の903、904会議室をパーティションを外した形で使う。図面左側の窓側を正面と、中心部分に島を配置するようなレイアウトを考えている。

資料 1-4は参加者へのアンケート案だ。事務局案なので、提案等あれば後で出してほしい。

資料 5は「市民参加を考える市民フォーラム」周知と参加申し込み状況だ。周知状況は、広報はちおうじ5月1日号、ホームページ、河川情報版での放送など。タウン誌へも今後掲載される予定だ。

資料 6のチラシを市の公共施設56か所で配布し、昨日付で町会・自治会にも郵送した。今後もタウンミーティング、学生天国等でチラシ配布により周知を図る。更に各委員にもPRをお願いし、約140枚のチラシを配布している。それらを受けての申し込み状況は、5月11日現在で9名、内訳は記載したとおりだ。

本日は、ワークショップでの役割分担等までを含めて決定してほしい。説明は以上である。

【委員長】 まず、確認、質問はあるか。1つずつ固めていきたい。1-1で、13時30分に始まって3時間ほどやるが、中でも一番のメインはワークショップだ。準備担当委員から補足があれば。

【委員】 事前の検討ではテーマ例も言葉としてきちんと決まっていなかったので、今日もう少しもんでほしい。ワークショップの進め方の(4)に「ポストイット等を活用して、発言された意見を全て記録」とあるが、ポストイットに書かれたものは、基本的に発言しきれなかったものも含めてすべて残してほしい。

【委員長】 いずれも非常に重要な事項だとは思いますが、ワークショップで討議するとき、こういうテーマで討議し易いかどうか。参加者が関心を持って議論が進むか、あらかじめ考えておかなければならないと思うが。

【委員】 チラシにも載っており5つのテーマは決まりのようだが、「例」とは、まだ流動性があるのか。

【委員長】 事前には、テーマは今日の段階で決めようということだった。ただ、広報に幾つかのグループに分けて議論することを載せなければならないので、およそこういうことをテーマとすることを知らせておきたいこともあり、例として出した。まだ固まった訳ではない。今、ここで皆さんの理解で固める。

【事務局】 補足だが、準備担当委員とテーマ設定について議論し、最終的にこのワークショップで何をねらいにするかという確認をした。現在委員会もこういう段階で、ワークショップ参加者の中には初めてそういう場に来る方もいるだろうから、何かをまとめて結論を出すのではなく、多様な意見を少しでも数多く、あるいはこの委員会では気付かなかった視点等も提示してもらうことを大切にしたらいいのではと。ではどうという発言の促し方をすればそういう方向に誘導できるかということで考えたものがこの5つだ。

ワークショップの進め方も、各グループに委員が数名入る中で、まず委員自身がこの委員会に参加して改めて気付いた、知ったこととか、市民参加について参加者に是非投げかけたいことなどを提示しながら進めていくと、参加者も発言し易いのではということが話題としては出たので、(2)にもそういう書き方をした。

今日また別の形のものが出ればそれも含め、最終的にはそんな方向で進めてもらえばいいのかなという意味合いでのテーマだ。本当はもっとキャッチフレーズ的な形のテーマ提示ができれば、当日表示するときも非常に分かり易いとは思いますが、一応そんなやりとりもあったことを報告しておく。

【委員長】 何か問いかける形の方が分かり易いという気はするが、その一方でもう少し短くならないかと思う。中身としてこの5つを各グループ単位でやっていくことに関してはどうか。特に1番目の「市民のやるべきこと、行政のやるべきこと」は、かなり広がりを持ってくるなという気がして、市民参加を考えるとこの問題も非常に大きな問題で考えなければならないが、1つのグループとしてやっていくときに市民参加の話題とどうつながっていくか。無理につなげなくてもいいかもしれないが、例えばこんなこともやってほしいという陳情だけに終わってもいけないし、逆にそんなことはもうやるべきではないという話だけに終わったとして、ではこの市民参加の話にどうつながるのかということも見えにくいかなという気もする。

これ自体は非常に重要なことなので、考えておかなければいけない重要な論点ではあるとしても、例えばグループを1つ設けてやるというのはどうか。いや、そうではないと思うかもしれないが、それについて賛

否の意見をもらえればと。同じように2番以下についても何か気付いた点があれば。

【委員】 4番も似たような例があるが、言葉は悪いが文句を言えば要望が通るだろうという要望型とか陳情型の声だけに終わらせず、市民が声を大きく出すことは大事なことだが、声を出すからにはきちんとそれなり責任があってしかるべき。なおかつ、市民も四六時中行政に携わっている訳ではないので、そのフォローアップを行政がどのようにやっていくか。その行政と市民の役割分担をどうしていくかをテーマとした。

【委員長】 非常に重要な点だ。論点として不可欠と思う一方で、こういう形に出すと、出てくるのは、個別の話としてこれは役所でやってほしいとか、今やっているがやる必要はないのではという話になってしまうのか。市民参加を進めていくとき、では市民はどういうことをやるべきか、行政はどういうことをやるべきか。例えば情報をきちんと提供しましょう、という方向にうまく議論が進められるかどうか。

【委員】 基本的に「市民参加を考える」という大テーマがあつての小テーマということで、こういう言葉になった。基本的には1つの切り口であつて、その切り口から入って市民参加に対しての幅広い意見を集めたいので、むしろテーマ1つ1つに拘らなくてもいいのかなと。それを切り口にしながら市民参加を皆で考える機会にして、幅広い、なかなかここでは出ない意見を拾っていく方向でできたらいいのかなと考えて、5つ程挙げた。どうしてもこのテーマに拘る訳ではないが、何らかの切り口を作っておいた方がいいかなと。そんな考えでの設定なので、例えば自分がこの担当になったときにどうしようかということも考えながら、もっとこういうテーマの方が話し合い易いのではということがあれば、当然変えてもいいと思う。

【委員長】 例えば1番だったら、市民参加をより充実させてこの八王子を発展させていく上で、市民はどういう役割を果たせるのか、行政はどういう役割を果たせるのかという意味か。

【委員】 そうだ。

【委員長】 どれくらいそこをピークとして議論が進められるか。2番以下についても同じことだが。

【委員】 5つのグループに分けようとするほど無理が出てくる。市民参加というテーマを細分化していくことになるので、1から5をよく考えれば、どのグループも例えば役所との関わり回りから入らざるを得ないのでは。自己紹介でフォーラムへの参加理由とか、どんな関わりがあつたかという体験とか、今までの考え方、不満とか、いろんなものを先ずは聞くことになるだろうから、恐らく進め方としてはほとんど同じになっていくのでは。こうやってグループを5つに便宜上でも分けた方がいいのか。あるいは、八王子市におけるこれからの市民参加のあり方ということについてワークショップしましょう、項目としてこういう5つを各グループで適宜取り上げていけばいい、という形で提示して、共通させてもいいのかなと。

【委員】 こういうテーマ設定をしてしまうと、逆に担当グループのファシリテーターになった委員がこれに拘り過ぎてしまうとうまくいかないかなと思う。その辺は進行の仕方だと思うが。

【委員】 この5項目に最終的に持っていく、議論しながら考えていく、その導入部分としての切り口があつた方がいいのでは。確かに我々はそういう方向に集約したいという最終的な目標はあるが、どういうルートでそこへ導くかという違いがあると思うので、テーマというよりキャッチフレーズというか、そんなこと

で議論しませんかという5つの区分けをしてスタートしていけばいいのでは。この5項目は、それぞれ論点ポイントが違う書き方になっているが、その部分を尊重してテーマ、議論の題をつけたと考えれば、と思う。

【委員】 このとおりに進めるなら、今日、委員が2人ずつどこに入るかを決めてもらえると、27日までにある程度考え、当日事前にプロジェクトメンバーとも打合せするので、こんな感じで進行を考えていきたいという事前調整もできると思う。先程来話が出ているとおり、何となくこんなことをやりますという形でやって、参加者をテーマ別に分けるのは30分程度では多分難しいと思うので、ある程度ブロックで分けて、人によっては少し意見が違ってまとめる側である程度誘導しないと、中には結構声の大きい参加者もいれば、指名しないとしゃべらない方もいると思うので、その辺をうまく聞き出してそれを委員が発表するみたいな形の方が。あまり詰めてしまうと、各班によって温度差が出て、かえって委員が大変なのかなど。ある程度1つのテーマで聞いていこうということなら、まだ2週間あるので、それなりの準備もできると思うが。

【委員】 このテーマ設定で、参加者が自分がどのテーマにということが決められるか。どれも関連がある。グループ分けは、単に人数が多い中で一堂に会してやるのは無理だから小グループに分けて議論をしよう、ということであるなら、席順でほんと5つのグループに分けるなら分けるという形で行かないと。テーマに絞り込む形でやると、ここでもこういう議論になっているのだから、参加者の方が、むしろ戸惑うのでは。テーマ毎のグループ分けでなく、この列はこのグループ、この列はこのグループと分けてもいいのでは。

【委員長】 テーマの差が見えにくく、参加者が選び辛いのではというのは、確かにそのとおりだ。そもそもこのワークショップでは、1つは、いろんな方々からこの場でも出ないことも含めてなるべく多くの意見を出してほしいということが前提としてある。その場合、人数が多いからグループ分けせざるを得ない。小さい単位に分けてやった方がいいということは合意できる。その際、一応これまでは各グループにある程度テーマを割り振ろうということで検討してきたが、今出た意見は、場合によってはそうでなくてもいいのではないかということだ。完全に機械的に分けて、そこでテーマを選んでもらうというやり方もあるかもしれない。どれがいいかは難しいところだ。恐らく、いろんな意見を聞きたいということと、グループに分けなければいけないというところまではいい。あともう1つは、論点整理に挙がっている論点に、できれば関連させて整理できれば一番望ましいが、ただ、それで区切ってやるのは難しいだろうということで、逆に、テーマといっても余り差がつかないような括り方になっているということもある。その一方で、ある程度我々が論じなければいけない論点に即した、最終的にはそこに結びつけていけるような意見もほしい。あるいは、重要な論点なのに、この5つの中に入っていないということでもまた困ることもあるのかもしれない。そのテーマ性とグループ分けをどこまでどういうふうに結びつけるかということだ。

【委員】 今、9人しか参加予定者がいない。今後各委員も自分の関わる団体や友人等に声をかけると思うが、知り合いが来たときどのグループに入るか。あなたがいるから来たのに、みたいな人がいるのか。あと、市議会議員もあくまでも申し込まないと参加できないのか。その扱いは。

【事務局】 議員にもチラシを全員に送っている。ただ、出席してほしいと要請した訳ではないので、来る

方は個人として参加するだろうし、事前に誰が参加するか把握はしない。

【委員長】 当日参加もあると理解していいか。

【事務局】 よい。会場の都合があるので、一応先着100名とPRしている。

【委員長】 委員1人当たり10人ぐらいは連れてくるだろうと私は思っている。

【委員】 昨日、国際交流団体連絡会の定例会でこのフォーラムのチラシを配って話をした。国際交流の立場で、私はずっと少数者市民ということを書いてきた。傍聴者意見にも、ワークショップのテーマ設定について「検討委員会が考えている人たち（特に外国人や子ども）の参加を保障するしくみ、アイデアを募るのはどうか」ということが出ている。前にも外国人市民に関する傍聴者意見もあったが、実際に昨日フォーラムのことを連絡会で話しても、何が関係あるのという反応だ。私は少数者市民についてずっと考えてきて、言ってもきたが、どのテーマが当たるのか。テーマの5番目、「一人でも、団体でも、みんなが参加できるしくみって？」かなとも思うが、このテーマだと論じていくときに非常に広過ぎて難しいというのが感想だ。「少数者市民（外国人）」とか、そういう形で出してもらった方が、話がどんどん出てくるのではないか。

【委員長】 テーマ設定は難しい。今の「少数者市民」というテーマを出すとしても、当然外国人だけでやるということではないとは思いますが、そういうテーマを設定することになったとき、そのテーマをどう前提に位置付けていくか。5番のところ、とりあえずは外国人に特に関心があるということであれば、外国人という少数者市民について議論してもらおう。10人、20人と連れてきてもらえれば、全グループに入ってそれぞれ意見を出してもらうことも当然考えられる。そういう点で言うと、逆にテーマに余り差がない方が、むしろいろんなところで少しずつ違う角度から議論してもらえるのでは。最終的に多様な意見が数多く引き出せればいい。テーマは考え出せばきりがないので、このままでいいかどうかは別として、ある程度のテーマ性は持たせて、やはりグループは作っていくと。ただ、そこで論じる中で、当然ファシリテーターの役割を担う方は、それを中心に議論してもらうにしても、テーマから少し外れるかなと思うものも、それはテーマとは違うから議論しないでくれと言うのではなく、こういう会議体とは違う形で、むしろそこで触発された全然関係ないような意見も引き出して、こんなものが出ましたという場として使った方がいいのかなと思う。

【委員】 事前にも外国人をテーマにという提案があり、福祉とか、環境とかに分けたらどうかという意見も出た。外国人の問題も、外国人だけが集まった方が意見を出し易いという話も出たが、そうではなくて、今まで全く関係なかった人達が、その場を少数の外国人なり、障害者の問題を話し合う場、市民同士のお互いの理解を深める場として使えるかなという意味で、テーマを限定しない方がいいのでは、という考えに最終的にはまとまった。だから、5番を少数者の声をというテーマにして、特に外国人とか障害者と限定してしまうのではなく、今までは全く考えもしなかった意見を聞けるという役割も果たせるフォーラムになった方がいいかなという考えもあつての設定だ。1つ1つのテーマ設定の表現は、ここでもんだ方がいいとは思いますが、基本的には分野とか意見を出し易い人たちだけが集まってやるのではない方がむしろいいのではないか。

【委員】 大勢が集まるワークショップでは、確かにいろんなテーマに分けることはよくあるが、恐らく1

から5に分けたら、各1つずつしかグループができない。テーマ毎にいろんなグループから似ているが違う意見が集まると、それはそれで皆で最後に共有したときに互いに参考になったり面白かったりする。この5つは類似しているので、関連はしてくると思う。でも、1つのテーマに1つの結論ではないにしても、結果しか出てこないということだと、ああ、そうですかという感じに最後はなってしまうので、もう少し広く、八王子市の市民参加への提案とか、期待とかという大きなテーマで括って、恐らくファシリテーターは、最後にいろんな意見が出てきたのを何らかの括りで括っていかなければいけないので、こういうテーマに関してはこんな意見が出たとか、その他にこんな意見が出たとか、1から5の括りをベースにまとめた方が、最後に共有し易いのでは。その後のこの委員会でも参考意見として参照し易いのではないか。

【委員長】 グループ単位のときには、もう少しテーマ設定としては大きな形でやると。

【委員】 共通した形で。市民参加制度への期待なり、提案なりということなのだと思うのだが。

【委員】 既に5つのテーマ例でPRしており、これを見て、よし、こんな話をしてみようという参加者もいると思う。来た人にどのテーマで参加するかまず聞いて、人数が余りにもアンバランスなら整理は必要だが、あくまでも市民参加ということは1つの大きなテーマだから、その話の中で、これを基にしながら結果的には膨らませて、全体的なまとめ方をしていくと、何とかまとまりがつかのかなという気がするが。

【委員】 グループ分けはやはり希望を聞かなければいけないと思う。それで例えば話し合い易いテーマで、その分野に詳しい方々に話してもらって意見を出してもらうことも重要ではあると思うが、今回はいろんな人がいろいろ話し合っ、ということだとすると、むしろ男女比とか、年齢構成とか、知り合いの人が固まらないとか、そういう要素で機械的に割った方がいいのかなと思う。

【委員】 私もそれに賛成だ。私はこのテーマでというよりも、どれに関わっても言うべきことは言ってほしいので、拘りなくそういう分け方がいいかなと思う。

【委員】 むしろテーマごとに分ける方がかえって難しい。最終的に市民参加をどう進めるかという大きなテーマがある訳だから、それに関してはとりあえず5つぐらい項目を出してみましたよ。こういったことで話し合いませんか。ただ、大勢だとなかなか議論が進まないから、ある程度小グループに分けてやろうよ。それには、こういったことでそれぞれいろんなことがあるでしょう。これらのことについては意見を出してくださいよという形の方が、むしろいろいろ出てくるのでは。

【委員長】 当初私も、恐らく大勢来るだろうからグループを分けるというところまでしかイメージしていなくて。確かに、例えば総合計画の策定なら、行政の分野別で環境、福祉、教育という括りでやった方がいい。そうすれば関心のあるところに行くということになるが、今回はそうではない。何らかの機械的な、男女比とか年齢とかのバランスで割り振って、それぞれがいろいろ議論するという考え方はそのとおりかな。ただ、その前提として、今回はこんなことが問題になるということ認識して意見を出してもらおうということなので、やはりある程度テーマを出した上でグループに分けて進めていくことは了解願いたい。

【委員】 多分、このチラシを見て参加する人は、この5つのどれに参加していいかわからない人は来ない

と思う。何らかの市民参加という意識のところで意見を述べたい人が集まると考えられるので、このグループはどんな部分をメインに議論しようとか、意見を出してもらおうとか、そういう区分けをして最終的にはまとめていくのは大変良いプランだと思う。1から順番に議論するのでは参加者は満足できないのでは。

【委員長】 テーマ性を持たせてグループに分けて検討していくというところまでで、ここに挙がった5つぐらいのテーマで進めていきたいというのはよいか。とりあえずそれで進めさせてもらう。来場者をどうグループ分けするか。1つは、その属性等でうまくバランスをとって機械的に割り振る。あるいは、そうではなく来る人は問題意識を持って来る人もいると。やはり問題意識を持ってきた人に、あえて別のところを割り振るのは問題がある。チラシの論点を見て、言いたいことがある参加者も確かにいるとは思いますが、多数にはなりにくいのでは。先ほど半分冗談に、10人ずつ連れてきてと言ったが、動員風にするといろんな方が来ることになる。必ずしも明確に問題意識を持たず、会場に来た段階で考えてもらうことになる方もかなり出てくるのでは。それはそれで構わないと思うが、そういう方に関してはバランスを考えて、ある程度こちらへと誘導するのも1つの手かなとは思っている。入場時の手続きは。

【事務局】 入場時にグループ毎のテーマを明記したものを渡して、参加者がそれを見て自分はここへ行ってみようという形で入ってもらって、基調報告の段階から分かれて着席というイメージは持っている。

【委員長】 少しバランスが悪いかなと思って、その段階でまだ決めかねているような人の場合は、私が話している間に事務局で誘導するという感じか。

【事務局】 基調報告後、ワークショップに移る間に5分程度の移動時間があるので、こっちにしようというチェンジは可能だし、ワークショップの途中で移ってもらっていいと前の委員会時にも意見は出た。

【委員長】 こういうテーマだと途中で移ることはないかもしれないが、そこは柔軟に考えたい。基本的には本人の意思で、どこでもいいよという人に関しては若干事務局の方で調整するという形でやらせほしい。

【委員】 市民参加を今まで考えていなかった人たちまでも含めて大勢の人に来てほしい、「市民参加を考える市民フォーラム」とは一体何を話すのかということが具体的に分かった方がいいということで、このテーマが上がってきた経緯もある。どれもただの切り口であり方向は一緒なのではと思っている。ただ、参加できるしくみとか、皆の声を何とかするにはどうしたらいいとか、それは考えるきっかけの言葉だし、それぞれの委員がファシリテーターをやるときも、この中で出たいろんな体験談とか、議論とかを話しながら、参加者の意見を引き出すということで、あとは進行の仕方次第と思う。むしろ進行をどうやっていったらいいかということ、当日ばらばらでやるよりは、コンセンサスをとっておいた方がいいのかなとは思っている。

【委員】 基調講演は委員長がやるのか。

【委員長】 それも一応予定で、これから皆さんの了解をもらうということだ。

【委員】 仮に100人が参加したとき、全員ワークショップに流れ込む前提で考えているが、基調講演で帰るケースも多い。それをどう想定するかでグループ構成が違って来る。シミュレーションしておく必要は。

【委員】 そういうこともあるので、このような最初に一応とりあえずのグループを作ってしまう形で基調

講演を聞くというのが事務局の案だと思うが。

【委員】 うまく誘導しないと、逃げるといったケースが多い。

【委員】 基調講演次第だ（笑）。

【委員長】 確かに。市民参加だからこそワークショップに参加してほしいが、話をとりあえず聞いて帰ろうという人も出てくるかもしれない。残ってもらえるよう工夫するが、予想がつかないのはしようがない。

では、このテーマについて、趣旨としてはこういう形にして、言葉の表現については、準備担当委員、事務局、私の方で調整するということでよいか。そして、このテーマ毎にファシリテーター担当委員を決めることになるが、割り振りについて事務局として考え方はあるか。

【事務局】 各委員の方でここなら私はやり易いという希望があると思いき、特に割り当て案はない。

【委員長】 先程の話で言うと、皆さんも強制的に割り当ててもいいかと思うので、もし希望があれば事務局に連絡を。そうでなければ、事務局案を作ってもらって、それで固めたいと思うが、よいか。

【委員】 ファシリテーター自身が関心のある、進め易いテーマというのがあると思う。例えば私は5番がいいかなという思いがあるので、この場でもよいか。

【委員長】 今、この場で言ってもらえれば、それでも構わない。

【委員】 100人規模で各グループ20人は多いかなと思う。20人の中で、他にどんな人がいるのかも分からずに発言するというのはなかなか勇気の要ることで、20人という規模そのものが多いかなと思うが。

【委員長】 事務局案どおり参加者に完全に自由に選んでもらう前提で、偏ったら分ける。20人という想定はしているが、それは100人集まればということで、そうやってほしいとは思いつつ本当にそうなるかということも考えると、20人とかそれを超すぐらいになったら、そこは2つ分ける。2人ついていれば、片方ずつ担当もできるという想定だ。一応今の段階で、このグループを是非やりたいという希望が他にもあれば。

【委員】 私も5がいい。

【委員長】 では、5はその2人にやってもらうということでよいか。あとは、5以外のところで希望があれば水曜日ぐらいまでに調整するというところでよろしくお願いしたい。

【委員】 チラシに定員100名、先着順と括弧で書いてあって、その後「申し込み」と書いてあるが、先ほど、当日参加可という話だったが、申し込みをした方としていない方の対応の違いはあるのか。

【事務局】 事前申し込みがあれば何人来るかという予測も立つし、当日は名簿チェックだけで入場できる。事前申し込みなく来た方は、受付で名簿記入の手間がある。違いはそれだけだ。会議室自体は150人入れる。基調講演、総括討議のコーディネーターは委員長でよいか。

【委員長】 基調講演は私、副委員長が司会進行ということだが、よいか。

（「異議なし」の声）

【委員長】 では、そういうことでよろしく願います。

【委員】 今、我々は市民参加の概念ということで、参加だ、参画だ、協働だ、共生だと言葉の定義につい

て時間をかけてやってきた。フォーラム参加者にそういうのが分かるような会場設定の仕掛けを考えてもらうと論議がさらに正確に活発になるかなと。検討願いたい。

【委員長】 可能な限り基調報告でも言いたいと思うが、現段階までにこういうものがまとまったと見せられるようにしておいた方がいいなど。こんな形で話し合っているということは分かるようにしたい。

### (3) 論点整理について

【委員長】 論点整理について、残りの時間は進めていきたい。まず事務局から、会議資料の説明を。

【事務局】 会議資料 2、「市民参加」の概念イメージ図について。これまで何種類か提示してきたが、全体的なイメージを示した。図の upper 段に長方形がまちづくりの主体としての「市民」を表している。「市民」の概念の中には、個人だけではなく町会、自治会、NPO、企業その他の各種組織などを含んでいる。これに対して、下の長方形は行政側、八王子市を表しており、網かけ部分が市長を始めとする執行機関で、教育委員会、農業委員会、選挙管理委員会なども該当する。それとは別に議会を表示して、議会との関係を示している。市民と八王子市間の雲状のものは、両者間での情報共有をイメージしている。市民と八王子市の執行機関を点線で括っているのが、八王子市の市民参加条例の領域をイメージした部分だ。市の実施事業に、評価・見直し、計画・立案、実施のプロセスがあるが、この部分への市民の関わりを「参加」として捉え、矢印で表した。市側から市民側へ出ている矢印は、市民参加を受けての結果等を市民側へ情報提供、発信していく意味と、より市民が参加し易い環境整備を随時行っていくことを表している。説明は以上だ。

【委員長】 前は「市民」「市民参加」、特に「市民参加」について、結局議論としては持ち越した形になり、前回提示された「市民参加」のイメージ図を更に直してもらったのがNo. 2の資料だ。相当時間をかけて「市民参加」とは何ぞやということを議論してきたが、質問も含めて意見を出してほしい。

【委員】 市民の枠の中にどこにも属さない市民1人1人というのは、この中にはイメージされているのか。

【委員長】 そうだ。

【委員】 でも、イメージしにくい。町会・自治会、NPOなどは点線ぐらいにした方がいい。

【委員】 個人とか何か書かないと、イメージがしにくいのかなという気がする。

【委員長】 集合の中で、町会・自治会、NPO、事業者とかを除いた残りがみんな個人だ。重なっている部分もある。「個人」というのをまたここに入れた方が分かり易いのかどうか。

【委員】 市民が所属するものとして、こういう4つとかいろいろあると思うが、これがぱっと入ってしまうと、何か市民が抜けているというか、これには絶対属さない人たちも結構いるだろう。

【事務局】 まず1人1人個々人の市民がいる。その全体が大きい集合で太線の「市民(まちづくりの主体)」。ただ、その市民の中でグループや団体や組織もあるので、このように図示した。

【委員長】 個人が前提としてある。そういう分かり難さがあれば修正していくとして、全体として考え方はこうだと。これですべて決着がついて定義付けされた訳ではないが、イメージとしてはこういう形になる

だろうと。ただ、事務局としては今のところ市民参加条例に議会を含めたくないというか、含めるつもりはないという考え方を出しているが、これは議論の余地はあるところだ。今回の市民参加条例では、そちらの参加は含めないという考え方も当然できるし、あるいは、市民から行政に向かう「参加」の部分もいろんな参加の仕方があるので、その中でどういう参加を考えるかは議論の余地がある。これは論点に関わってくるが、点線の部分をどう考えるかは別として、おおよそ全体としてはこういう感じかなというところだと思う。

【委員】 前回委員会の議論の多くをこの「参加」「協働」「参画」の類似概念の整理に費やしたが、この図の「参加」はそういうものなのか。主体的に関わって共にやっていくものを「参画」と、確か八王子市では分けていたが、そういうのも入っているという理解でいいのかというのが1つ。もう1つは、「参加」の矢印が市民から市側に片方向だけで、市と教育委員会側からは「情報提供」「環境整備」という「参加」の前提の部分しかないのは、少し気になる。「参加」の後のフィードバックとか、反映とか、そういうものがない「参加」は、まさに従来型の「参加」と変わらないように見えてしまうが。

【委員長】 1点目は、「参加」を相当広くとっているつもりで事務局は書いたのだろうと、私も受け止めている。2点目は、先ほどの説明で情報提供が一種のフィードバックだという言い方をしていたが、足りない部分があれば、今言われた点は言葉として補った方がいいかもしれない。「情報提供」と「環境整備」だと、これは「参加」の結果の「情報提供」か、あるいは参加する前提としての「情報提供」か、両方含めるということかもしれないが。「環境整備」にしても、前提の部分と、参加した結果としてどういうことが市民に還元されるのか、共有していくのかという部分は、もう少しきちんと示す必要はあるかもしれない。これが決定版ではないので、もう少し分かり易く示していく必要がある。余りごちゃごちゃと書くと、矢印がいっぱい入って分からなくなってしまうのではないかと。我々はずっと議論をしてきているので分かるが、初めてぱっと見た人は、とりあえずこれぐらいが…。それでも、ぱっと見たときにどこをどう見ればいいのかすぐには分かり難いかもしれない。今言われたことは重要な指摘なので、その辺がよく分かるように最終的にはきちんとしていきたいが、この「市民参加」については大体よいか。これで定義がきちんとされたという訳にはいかないかもしれないが、これを前提にして、次以下の論点を少し進めていきたい。

【委員】 やはり「参画」という言葉がほしいと思う。それから、計画・立案、実施、評価・見直しのどの段階にも参加・参画が不可欠ということが分かるような図であった方がいいかなと感じる。

【委員長】 図の表し方の工夫ということだ。

【委員】 「参加」をもっと太くして、その中に「参画」とか「協働」という矢印があって、その中に更に市側から戻る中にも「協働」という部分も入れた形に、要は「参加」の線を太くした中に幾つかあって、下から上に来るのもあると。その方が何となくイメージし易いかなと。「参加」と分かれて2本になっているが、それを取りまとめたもったい、「市民参加」の右側の線と「情報の共有」の「共」の字の線の間に、太い「参加」という矢印があって、その矢印の中に「協働」とか「参画」とかというのがあれば。認識としては「参加」が全体にあって、「参画」と「協働」があるという位置付けは表現できるのかなと。

【委員】 「市民参加」というタイトルがある。下向きの矢印は「参加」で2つある。「参加」「参画」「協働」「共生」、いろいろあるその概念、定義が我々の頭にこびりついているので混乱しているのだと思うが、太い矢印の「参加」を「市民参加」という表現に変えたら、その「市民参加」という言葉の中に「協働」だとか、「参加」「参画」だとか、そういう概念が含まれるのではないか。

【委員長】 それで分かり易くなるかどうか、もう一回いろいろ試しに描いてもらいたい。

それでは、この論点のローマ数字のIIに入っていく。「市民参加条例に盛り込むべき事項に関すること」について、ここでは5項目に大きく分かれているが、まず最初の「市民と行政との情報共有について」。3つ挙げていて、1 市政の基礎的情報の提供、2 参加に必要な情報の提供、3 市民への説明責任がある。いずれも重要であることに異議はないと思うが、そこで、更に市民と行政が情報共有していくことについて、こういう点をもう少し考えなければいけないのではないか、あるいは、項目としてこれが抜けているのではないかと、今ここに論点として幾つか が挙げられているが、それについて意見があれば出してほしい。

【委員】 多くの政策過程を共有するために、行政側が情報を提供していくことが一番重要である。そのことにより市民参加へのステップになると考える。

【委員長】 まずこれがきちんとしていないと参加も始まらない。形だけのものになる。

【委員】 そこをどんどん情報発信していくということだ。

【委員長】 例えば「市政の基礎的情報の提供」と「参加に必要な情報の提供」とある。ここをどう切り分けるかということもあるが、市民に伝えるべき情報がきちんと伝わっているか。いろいろ意見があると思う。もっと重要な基礎的な情報を出してほしいということもあるだろうし、十分されている、たくさん出し過ぎて、市民側がきちんと受け取りにくくなっている、もう少し整理したら、など。市民に伝えるべき情報ということで、市では広報を出して、それで市としては伝えるべき情報は出しているということになる訳だ。

【委員】 ホームページを覗いて感じたことだが、ホームページからアクセスしても出てこない情報がある。この論点に加えてほしいことは、市民が知りたい情報が簡単にすぐ手に入るかということだ。例えば条例の中身まで見たいときに、八王子市の条例がどういう体系になっていて、法律や通達とかの絡みでどうなっているのか知りたいことがあったが、そこまで行き着けない。そこまで行く必要もないだろうが、公開しても何ら問題のない基礎的な情報だと思う。知りたいときにすぐ手に入る情報というのができればいいと思う。

【委員長】 条例自体は例規集がホームページ上から探せるが、それと法律がどう関係しているかとか、具体的に市の事業とどう結びついているかという関係、例えば各課が持っている事業と条例との関係とか、あるいは計画とかが載っているようなところというのはあるか。

【事務局】 条例は例規集という形でホームページから体系でも条例名でも検索できるようにはなっている。その条例をどの部署が所管しているかということまでは出ているので、そこを見ればどの事業に関連したものだなという見方も不可能ではない。それを市民が見て、どこまで意味合いを読み取れるか、市民が見たいと思ったときにすぐ探せるかどうかはまた別だが。

【委員】 そうなのだ。アクセスの仕方を間違うともう出てこない。

【委員長】 事務事業評価の評価表に事業毎に法令、条例、計画との関係というのをきちんと書き込んだものがあって、それを公開していればそこから探せるが、八王子市はそう詳しいものは出していないのか。

【事務局】 どんな根拠に基づいて事業をやっているか載せているものもあるが、リンクされてはいない。

【委員長】 リンクはされていない。そういうものを見れば分かると知っている人には分かるが、例えばもう少し詳しく調べたいときに、こういうものを見たらどうかと分かるような、よくある質問というようなコーナーを作るかどうかということになるか。

【委員】 この委員会に出るようになってちょっと知りたいなと思ってアクセスしたことがあるが、要は地方自治体の行政用語が分からない。検索をかけてもヒットしないとか、そういう問題もある。行政に関しては素人なので、やみくもにあちこちクリックしながら、リンクを探したりしているが、結局出てこなかった。

【委員長】 それは大きい問題としてある。行政とほぼ同じことを言っている企業が使っている言葉と違うとか、そういう場合には分かり辛い。どうしたらいいか。非常に難しい。単に情報を出すだけでなく、そういうことも含めて分かり易くして、簡単にし過ぎても、本格的に調べようと思う人には、逆にそれでは物足りないということになってしまう。いろんなことを考え出すと、この情報提供の仕方は難しいが.....。

【委員】 市役所の総合案内へ行けば、いろいろ案内してもらえ。ネットで情報を検索する場合にも、そういう窓口があると便利だなと思うが、置くだけの価値、頻度があるかというのは、ちょっと分からない。

【委員】 大事な問題だ。例えば町会長など1年交代の人が約半分いる。そうすると、新しい人はこの問題はどこの窓口に行けばいいのか、それでたらい回しみたいになってしまう。いろいろ話しているうちには分かるのだが、初めての人、一般の市民の場合には、そこへ辿り着けないケースは結構ある。行政側からすれば、こう出せば分かるだろうということだと思う。それはそれなりに有意性があると思うが、一方、見る側の立場になった場合に、今の方法が妥当かどうか。この意見は大分出ている。やはり市民サイドがそこへ辿り着くのがなかなか大変なのだということがあるので、その辺をどうすればいいのか。

【委員長】 恐らく八王子市でも、暮らしの便利帳は非常に分かりやすく作られているとは思いますが、もう一步先のものをある程度ちゃんと作れるかどうか。市民参加ということを考えれば、冊子にするなり、ホームページにきちんと載せて他とリンクできるようにするなりということだと思う。町会役員を引き受ける方は毎年のように代わって、相当数の方がいる。分かり易くするのであれば、そういう方々向けにある程度、こういう地域のことに関わるときにはこういう課だとか、多分町会長以外でも、地域で自分でも考えたいという人はそれを見れば便利になるに違いないので、そういうものもある程度作れるか作れないかということだ。

【委員】 非常に重要な論点で、そこは議論が必要だと思うが、いろいろ相談業務をやっていると、相談に来られた方の論点が整理されていなかったり、何を聞きたいのかが分からなかったり、最初に相談を受けたときには、こういう系列のものだろうと思っているんだけど、窓口までいくと話がそこで変わっていたらどうするんだという話になる。それに全部に応えるために、インターネットですべてに対応するという

と、すごいサーバーの量になる。書面で対応すると、すごく厚いものになると思う。ケース・バイ・ケースの対応を細やかにしてほしいという意見だと思うが、もしやるのであれば、コンシェルジェというのか、人件費はかかるが、市役所の中にそういう人を置いて、その方が話を聞いて整理するとか、受付担当者のスキルをもっと上げるとか、そういう形で対応するのでなければ非常にコストのかかる話だと思う。コストだけでなく、書類ならば書類を置く場所、保管場所、配布方法の問題もある。人件費はかかるかもしれないが、実現するのであればむしろ受付担当者を教育するか、コンシェルジェを1人、市民がいつ電話をかけても出て、どんなことにも細やかに答えられる人を市役所に1人置いておくという形の解決しかないのかなと思う。そのことにそんなに本気になって取り組むかどうかは別にして、もし実現する可能性があるならば、サーバーでも書面でもない方がいいのでは。単純にコストパフォーマンスだけ考えれば、そういう意見があると思う。

【委員長】 私も深く言い過ぎたかもしれないが、個別の方法がどうかということより、多分ホームページなり、冊子なり、コンシェルジェなり、いろいろな方法はあると思うが、何かそういう対応できるようなくみが必要になってくるだろうということで議論をさせてもらえればと思うが。

【委員】 私はこの4月から自治会長を仰せつかっているが、私の町会は1年交代で、本当に何をやっていいか訳が分からない。逆に会員からも問い合わせが来るが、こちらがよく分からないからなまごついて本当に困る。市政についてそこへ行けば大体分かる窓口ができればそこに行ってくださいということができると、なかなかこちらが分からないものだから戸惑っている。もう1つ、高齢者はホームページを見られない者がほとんどだから、こういう人たちがどこでどのように市の情報を享受できるかなかなか難しい。先ほど市の便利帳という話があったが、ああいうのももう少し分かり易いものがあるとか、市のどこへ行ったら、その条例はそこへ聞けば分かるというようなことができると非常に助かると思う。

【委員長】 幾つか論点があるが、1つは、やはり窓口としてはワンストップの、1カ所どこかに行けば教えてくれるようなくみが恐らく必要になってくるだろうということ。それがホームページか、人をはり付けるか、いろいろあると思うが、コストパフォーマンス、あるいは中身としてどういう情報を提供するかによっても幾つかのツールを使い分けることになるのだろうと思う。そうしたワンストップで必要な情報が得られるようなくみとして、適宜いろいろ提供できるような体制づくりを目指さなければいけないということ、やはりこの条例の中でも謳い込んで、市民にぶつけていくというぐらいの感覚で行くべきかなと思う。

【委員】 窓口での交通整理も大事だし、インターネットの情報を整理するというのも大事なのだが、そこに回されたときに職員が全然答えられないことがすごく多い。この部署だと言われて窓口に行っても、担当部署の職員が答えられないことが、以前に比べれば随分減ったが、すごくある。

【委員長】 自分の仕事を答えられないのは、また別の問題だが。

【委員】 市民が知りたい情報がきちんと伝わるかということはずごく大事。市役所に足を運んで、環境に行ってください、福祉に行ってくださいと言われることが多いが、対応する職員が答えられず、奥に行ってみるとか、ここではないと言ってどこかに電話したりとか、すごくそれが多かったので、やはり市民が知りたい

情報がきちんと伝わるというのは一番の基本だと思う。職員の力量というか、勉強というか、その辺はこの条例に入れるかどうかは別として、やっぱりそこが基本だということを忘れてはいけない。

【委員長】 それは私も非常に重要な点だと思って、市の職員としての基本的な能力としてはもちろんのこと、その職務をこなせるとしても、ここで言う3番目の「市民への説明責任」の中にも入ってくると思うが、個人の職員としても市民にきちんと自分の仕事が説明できることが重要だ。そういうことを職員、組織としてきちんと考えていく。情報共有の前提として必要だ。

【委員】 例えば「伝わっているか」とか、「参加できない市民にどのように情報を伝えるか」「既成メディアのあり方」とあるが、論点ということは、これについて意見を言うということか。

【委員長】 この論点整理は、幾つか事務局で足したのものもあるが、基本的にはここで議論したことをこう整理したので、論点が網羅されている訳ではない。

【委員】 つまり、これに関してもっと要望を出すということでもいいのか。

【委員長】 要望というか、意見を。

【委員】 つまり、それが実現するという望みを持って言えばいい訳か。条例に盛り込むべきものかどうかというのは判断しかねるが、こうあってほしいという議論をしても。

【委員長】 この場で議論して判断するので、思っていることを言ってもらえばいい。

【委員】 例えば「情報がきちんと伝わっているか」、「参加できない市民にどのように情報を伝えるか」、「既成メディアのあり方」と全部関連していることだが、市報は毎月2回発行され、かなり市民が情報を受け取ることができていると思う。しかし、「Ginkgo」という外国人のための情報誌があって、これは市報を翻訳していると言われているが、もちろんすべては翻訳されていない。情報は載っているが、春、夏、秋、冬と年に4回発行され、最初は英語版だけだったが、去年から韓国語、中国語と3か国語で発行されているが、年4回で情報が確実に伝わるか非常に疑問だ。本当に薄いものでもいいから情報はもっと迅速に、これは市民に伝えなければならないというものは毎月でもできないものかなという思いがずっとあったので、毎月出してほしいなど。内容をもっとシンプルにしてでも、情報は確実に伝えてほしい。

【委員長】 対象者にきちんと伝わっているかということ、その対象によっては、こういう広報紙であれば、広報紙を読める人でなければ伝わらないということになる。そこをどう考えるか。あとは、市民に向けてこれを伝えなければいけないと広報紙を出しているのだろうが、果たしてこれが本当に市でやらなければいけないことなのかどうか。市が広報しなければいけない責任はあるとしても、広報紙を出すのは市が本当に直接やらなければいけないのか。これは議論がずれてしまうところもあるが、今の外国人向けということであれば、市役所の中ですべて編集して毎月やろうとすると大変だと思うからこそ、多分季節毎にしかやらないと。例えば予算付けは必要になるかもしれないが、いろいろなそういう外国人向けのNPOをやっている方々と協力しながらやっていくということも可能かもしれないし、先ほどのコンシェルジェの話が出たが、例えば職員を10分の1ぐらいに減らすと言って有名な埼玉県志木市は、受付も含めているんなサービスを、

パートナーシップ協力をする一般の市民でやっている。一般の市民の方々が詳しくできるかどうかという問題はありますが、例えば市の職員のOBにお願いする、今でも再雇用とかいろいろあるが、そういうことだってできるかもしれないし、どういうやり方でやれば本当にいい情報共有の仕方になるのかということを含めて考えた上で、具体的なところは考えていかなければいけないと思う。

そこまで入ると、今議論しているところから入り過ぎてしまうところもあるが、ただ可能性として、市が全部何でもやらなければいけないというところから出発してしまうと、できないことがいっぱい出てくる。

【委員】 何でもかんでも市が情報を市民に伝えないから市が悪いという考え方は間違っていると思う。そこまで市側に要求する必要はない。情報は必要なときに必要な人が必要なところに取りに行けばいい。取りに行ったときすぐ取り出せるような体制を行政側に作っておいてもらえばいい。情報は金を払ってでも欲しい人が取りに行けという時代だ。座っていて情報が入ってこないからけしからんという考えは間違っている。ただしその中で、大きな団体だろうと少数派だろうと、すべての人に情報が均等に公平に渡せるような体制だけはとってもらえたらと思う。行政もコストパフォーマンスは当然考えなければいけない。最初に言った市民が知りたい情報をすぐにとれるようにということはそういう意味なので、誤解のないように願いたい。

【委員長】 例えば広報紙は完全に内部でやっているのか。委託でどこかにやらせているのか。

【事務局】 基本的には、印刷などは委託に出しているが、編集は庁内だ。

【委員】 広報配布は今新聞折り込みになっている。新聞をとっていない方は今すごく多いと思う。あと、新聞を複数紙とっている家にはいっぱい来る。

【事務局】 これまで何回か同じ話題が出ているが、基本的には新聞の折り込み、駅のスタンドや協定しているコンビニへの配置。それとごく一部だが、障害のある方など直接郵送している世帯も幾つかある。

【委員】 全戸配布するチラシ業者は、コスト的には、折り込みと比較して、どうなのか。

【委員】 折り込みの方が、値段が10分の1ぐらい安い。

【委員】 でも、今、新聞をとっていない人が多い。

【事務局】 その辺は議会でも常に指摘されており、検討は所管でしていると思うが。

【委員長】 恐らく庁内でも検討はしているだろうが、絶えずいろんな方法を考えていかなければいけない。

【委員】 個別の論点は幾らでも出てくる話で、外国人の話もそうだし、福祉などは点字という方法もあるし、手話の会が手話でやってあげるとか、朗読の会が朗読してあげるとか、いろんな方法もある。大体皆さんの意見が出たところで、やはりすべての人に情報が行き渡るように努力するべきであるという条文を我々は挙げるべきだということでこの議論をある程度まとめないと、方法論では幾らでも出てくるのでは。

【委員長】 その場合、方法論は常にベストを尽くせるように、かつ、少数という言葉で言っていないかどうかいろいろあるが、そういう方々、いろんな人達の立場をきちんと考えるように、絶えずその方法を見直していく。そういうことが議論できるような機会も作っておくということを入れておく必要はあると思う。

【委員】 外国人への広報が年に4回しか出ていないということを我々は知らなかった。それがこの場で出

されて、会議録に残って、あ、そういう状態なんだということが理解されて、そこに対する問題改善の投げかけがあったということはいいことだと思う。

【委員】 先ほど市民参加の概念のところでも思ったのだが、計画の立案、実施、評価・見直しの政策過程の中で、一旦行政が政策決定して実施した、あるいは評価した段階で、いわゆる市民の提案・意見・苦情・要望等をいかにフィードバックしていくかということ、情報の共有として、条文として盛り込んでほしい。

【委員長】 そこは考えてみるが、今、この項目で言うと、「市民への説明責任」というのもあるが、そこだけで尽きる話ではないと思うが、どうか。

【委員】 情報発信はきちんとされているのは分かるが、一方で伝達方法。1年間で配る紙ベースの回覧、各戸配布は別で、回覧ベースで全部合わせると1年間で200近くになる。それが市から、警察から、保健所から、いろんな所から回ってくる。この氾濫もかなりなものだ。すると受ける側はさっと目を通すだけになってしまう。情報が流れているように見えるが、そこで止まってしまっている。その辺も少し考えてほしい。

【委員長】 今市民に提供している情報が、なるべく知らせた方がいい、とりあえず知らせておけば後から知らせたろうと言える、ということになっていないかどうかという問題は、やはりあると思う。

【委員】 男女共同参画で「ぱれっと」という広報紙を出しているが、以前は年に何回か、回覧でしか市民に知らせていなかった。それが何年か前に、広報を庁内全体で整理したときに、年に1回だけになってしまったが、12月15日号広報に挟み込む形で全戸配布されるようになったら、すごく相談が増えたということだ。町内回覧していても発行されていることをほとんどの市民が知らなくて、すぐ判こを押して隣に持っていっちゃうという状況で、知りたい人に届いていなかったが、広報配布になってから相談が増えたということ。先ほど知りたい情報がある人は求めればいいと言われたが、例えばドメスティック・バイオレンス(DV)を特集したところ、その後相談がものすごく増えたという実績があった。自分が普段から悩んでいたことが、DVだということとその広報を見て初めて知ったという方がものすごく多くて、自分が悪いと思って悩んでいたのが、その広報のおかげで、自分だけの問題ではないことが分かって、男女共同参画課への相談がすごく増えたということがある。情報を求めたいと思っていなくても本当は必要な人がたくさんいる。福祉でもそうだと思うが、そういう人たちにも分かり易く広く届ける方法を常に考えていかなければいけない。DVのことで言えば、私たちの協議会で被害者相談をやっているが、役所で協力してもらって、名刺大のカードをクリエイトホールとか幾つかの施設の女子トイレの個室の中に置いている。チラシ配布ではなく、女子トイレの個室にDV相談電話のカードを置いていて、ものすごく減っている。電話はかかってこないけれども、それをいつもお財布に入れて、いざとなったらここに電話をしようと思っている方がすごく多いということで、やはり情報を知らせる方法というのは、もっといつもいつも考えていかなければいけないと思う。

【委員長】 自分が本来必要であろう受けるべきサービスがいろいろな事情で必ずしも認識できていない場合がある訳で、そういう意味では潜在的な需要を掘り起こすということ、過剰に掘り起こして問題になるケースもあるが、今のようなケースはいろいろ問題があれば、それは掘り起こしていかなければいけない、潜

在的なものを顕在化させ、行政が対応すべき問題として認識しなければいけない訳で、まさにそれは広報のやり方を変えることで出てきたことだ。別のやり方をすれば、もっと的確に出てくる部分もあるのかもしれない。そういうより実効性のある情報提供を絶えずきちんと考えていくということに入ってくると思う。

そうまとめてしまうとまとめ過ぎにはなるが、こういう話の中では個別の話は入れにくいので、そういう事例もあることをこういう記録に留め、かつ、将来具体的な仕事を進めるとき生かしていもらうことになる。

【委員】 3、4年前から、回覧は1日と半ばにまとめてくれと要請した。最近、役所関係はほぼそれに沿う形になってきている。ところが発行するのは部署毎だから、いろんな部署から発行されたのが次から次へと来る。回覧はその都度回せないから、各町会でもある程度まとめる。そうすると、5部とか10部まとまっちゃうというところも出てきて、みんな細かく目を通さないから見逃しも出てくる。市から情報は提供されているが、現実には見逃されている。見る側も完全に目を通せない。1つ1つ見た場合、それは当然情報提供しなければいけないから出されている情報ではあるが、余りにもその情報が氾濫しすぎると、逆に見る側は面倒くさくなってしまう。その辺どう調整していくべきか。

【委員長】 情報を出せ出せと言われることが多いので、たくさん出してきたということはあると思うが、むしろここで、出し過ぎることについても、そういう見落としが発生することを考えると、ある程度これは出さなくていいというものもあるのかもしれない。その辺の見直しは、庁内では恐らく余りやらない。無駄な情報は流さないようにしようということは余りしない。無駄だとは思っていないだろうから。

【委員】 必要なものだけ流していると思うので。

【事務局】 無駄をなくすことと、いかに経費を抑えて効果的に伝えるかということについては、それぞれ所管なりに頭は悩ましているが、個々の所管はよかれと思ってやっても、1か所に集まったときにそういう問題が起きているということは、やはり考えていかなければいけない部分だと思う。

【委員長】 これは考えておかなければいけない。大きな問題だと思う。

【委員】 自治会に加入していないのが実際3割から4割。加入していない家には回覧が回ってこない。しかし情報が来ていなくても、別に何にも困っていない。市報を月2回見れば必要な情報は得られるので、回覧板がなくても困らない実情がある。本当に回覧板は必要なのか。実際私は自治会に加入していないが、市報で情報は得ているので困っていない。回覧板は必要なのか。ダブって情報が行っているのではないか。

【委員】 それは、自分が住んでいる地域との共生という意識とも関連があるのでは。

【委員長】 それは多分、個々人が置かれている状況によって、自治会からの情報がなくてもいい人もいれば、ないと困るという人もいる訳で……。

【委員】 町会・自治会を否定されたら、元も子もない。

【委員】 そこは全然論点が違う。

【委員長】 自治会がどうかという話ではなく、重要なのは重複して情報が提供されている実態があるのではということで、やはりきちんと考えなければいけない点だ。町会長に負担をかけている話にもなる。

【委員】 かなりの負担を感じている。町会長から反発が出てくるところもある。これは必要だから流すんだと我々は説明を受けるが、必ずしもそうとは受け止めない場合がある。同じようなものが1回に2枚3枚まとめて来ることもある。その整理は必要だろうと。以前は自治会に入っていない家にも全部配っていたが、それに対して会員から苦情が出て、それから私は市役所とも相談して、会員回覧のみに切り替えた。

【委員】 この会議自体の目的から行くと、やっぱり大儀としてどういう概念を打ち出すかという話だと思う。今のことから非常に共感できる部分がある。言葉がうまく当てはまるかどうかだが、市民を大人と捉えるか子どもと捉えるかということ。たくさん情報が来ても、必要な人がその中から選び取って、自分の必要なことについては責任を持って、多かろうが、少なかろうが、その中から選び取って読んでいくんだという大人の扱いをするのか。ゆりかごから墓場まで、全部行政がおむつを取り替えるところまでいくという論理にしてしまうのかという点からいくのであれば、ここでの意見は、大体大人としてある程度扱おうじゃないかと。必要な部分を取り出そうじゃないかと。しかし、この会議の導き出す方法として、そうではあるけれども、大人として扱った上でも、さらに不利を被る方に対しては何らかの手当てをするべきであろう、という意見に集約するべきかなと思う。言ってみれば、五体満足で判断能力もあって、情報を取り出せる力があるのに面倒くさいという人は、そこはちょっと違うよという話はしなければいけないし、だけど、本当は情報が欲しいけれども、インターネットが分からないとか、山の上に住んでいて新聞もとっていないお年寄りのところに、その人だけは届けてあげるシステムを何か作れないか。そういう論点は大事だけれども、やみくもにすべての人間に、こう言われたから対処しますと言っていくと、それこそ書類が膨大になってしまうのではないかと。そこをうまく委員長の方で盛り込んだ提言を出してもらえるとありがたいなと考えている。

【委員長】 今非常に的確にまとめてもらった。先程来の話、そういうことで皆さん意見に違いはないと思う。大きくここでまとめる上では、個別のことに関してはいろいろな考えがあると思うが、いずれにせよこの情報共有というのは、市民参加を進めていく上で大前提となる非常に重要な点なので、今ここで議論したことを中心に一回まとめて、それも踏まえて更に進めていきたいと思う。今日は2時から始めて既に時間が過ぎているので、この辺で一旦切った方がいいかなと思う。

今日は情報共有のところでは止まってしまったが、重要な点なので少し時間をかけてよかったかなと思っている。次回、参加のタイミングとか、手法というところについて、さらに論点を見ていきたいと思うので、あらかじめ考えをまとめて次回の会議に臨んでほしい。その前にフォーラムがあるので、よろしく願いたい。

### 3 事務連絡

### 4 閉会

以上